

第6学年 社会科学習指導案

日 時 平成24年12月4日(火) 第3校時
 児 童 ○○市立○○小学校 6年○組 ○名
 場 所 6年○組教室
 授業者 日本史2
 指導者 教諭

1 単元名 「もし自分が聖徳太子だったら。」

2 単元の目標と評価

(1) 目標

- ・聖徳太子の業績を調べ、そのねらいや聖徳太子の理想を考えることを通して、飛鳥時代は氏族連合政権から中央集権国家への過渡的時代であったことを捉えることができる。
- ・聖徳太子の偉業やその背景、聖徳太子を取り巻く人間関係を分析し、聖徳太子という人物はどのような人物なのか、どのような人と協力して政治を行っていたのかを理解し、もし自分が聖徳太子であったら蘇我氏と協力して政治を行うかどうか自分なりの考えを持つ。

(2) 評価規準

- ・評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考・判断・表現	ウ. 観察・資料活用	エ. 知識・理解
○聖徳太子という歴史人物に関心をもち、意欲的に学習に取り組むことを通して、歴史を多角的に捉える態度が見られる。	○聖徳太子と蘇我氏はどのような関係でどのような功績を残したか考え、調べ学習や資料を基に、根拠をもって「あなたが聖徳太子であったら蘇我馬子と協力するかどうか」を判断することができる。 ○歴史や歴史上の人物に対して、偏った見方をせず、多角的に考えることができる。	○聖徳太子の四大革命について、資料を適切に活用したり、インターネットなどを利用して調査したりすることができる。 ○調べたことを自分なりに整理したり、工夫したりして発表したり、ワークシートにまとめたりすることができる。	○聖徳太子の業績や理想、周りを取り巻く人間関係を知る。 ○飛鳥時代は氏族連合政権から中央集権国家への過渡的時代であったことが理解できる。

・評価基準

ア. 関心・意欲・態度

- A：聖徳太子に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。
- B：聖徳太子について、学習に取り組んでいる。
- C：聖徳太子について、あまり関心がない。

イ. 思考・判断・表現

- A：資料を基に、説得力のある根拠をもって、蘇我馬子と協力するかどうか判断できる。
- B：根拠をもって、蘇我馬子と協力するかどうか判断できる。
- C：蘇我馬子と協力するかどうか判断している。

ウ. 観察・資料活用

- A：資料を適切に活用し、自分なりに整理して調べたことがまとめられている。
- B：調べたことがまとめられている。
- C：調べたことがあまりまとめられていない。

エ. 知識・理解

- A：学習事項がノートやワークシートにしっかりまとめられている。
- B：学習事項がノートやワークシートに大体まとめられている。
- C：学習事項がノートやワークシートにあまりまとめられていない。

3 単元について

本単元は、小学校学習指導要領第6学年の「内容（1）イ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること。」を受けて設定された単元である。ここでは、内容の取扱い（1）一エに例示されている「聖徳太子」を取り上げた人物学習を行う。そして、聖徳太子の業績を調べ、そのねらいや聖徳太子の理想を考えることを通して、飛鳥時代は氏族連合政権から中央集権国家への過渡的時代であったことを捉えることができるようにするのがねらいとされている。

既習事項としては、児童は縄文時代～古墳時代を学習している。時代の流れや移り変わりを意識し、その時代の特色が理解できるように指導していきたい。また、聖徳太子の学習を足がかりとして、飛鳥時代の特徴である大化の改新や仏教の伝来なども指導していきたい。

本単元は、飛鳥時代を6世紀中葉から7世紀中葉までとしておくと、推古朝はちょうどその中頃にあたり、内政・外交・文化の三面にわたり一大転機を迎える激動の時代であるといえる。すなわち、内政面ではそれまでの氏族連合政権から中央集権国家への移行であり、外交面では親百済・対新羅から親隋・唐外交への転換であり、文化面では古代文化から儒教・仏教に基づく文化への形成である。6～8世紀（飛鳥時代・奈良時代）は聖武天皇および奈良の大仏を象徴とする中央集権国家体制の成立といえる。そし

て、そのスタートが聖徳太子となるだろう。しかし、聖徳太子の生きた推古朝はいわば氏族連合政権の色彩の方が濃く、むしろその実質的スタートは大化の改新以後だとしたほうが良いといえるだろう。つまり、推古朝は氏族連合政権から中央集権国家体制への内政・外交・文化における過渡的・変革期といえる。

ここでは、天皇を中心とした中央集権国家づくりを目指す聖徳太子の業績1つ1つを調べる。しかし、その背景には、蘇我氏をはじめとした諸豪族の存在があった。橘豊日皇子は蘇我稲目の娘堅塩媛を母とし、穴穂部間人皇女の母は同じく稲目の娘・小姉君であり、つまり聖徳太子は蘇我氏と強い血縁関係にあった。そのため、常に彼らを念頭に置きつつ施行されたものであり、公地公民に基づく皇権確立を目指す皇室と私地私民を基礎とした豪族との対立があった。こういった時代解釈はそのまま学習内容として教えるのではなく、児童自らが資料を基に分析し、その時代に迫れるようにしたい。そして、聖徳太子を「時代の先鞭を付けた偉大な哲人政治家」という一面的な見方を児童に植え付けないため、聖徳太子についての批判的分析も取り扱う。最終段階では、これまでの学習を通して、聖徳太子という人物はどのような人物か、どのような人間関係をもち功績を残していったのか理解し、もし自分が聖徳太子であったら蘇我馬子と協力するかどうか意思決定力を養わせる。加えて、歴史や歴史上の人物について、多角的に見る力を培わせたい。

また、本単元の指導においては、資料を活用し、児童の活動の時間を多く確保する。教科書に掲載されている資料だけでなく、児童の興味・関心を惹く視学資料も使い、指導を行っていく。

具体的には、まず教師によるエピソード紹介や旧壺万円札と聖徳太子の像を提示することによって児童の興味・関心を惹きながら、または児童に聖徳太子について知っていることを発表させながら学習へと導入する（「人物との対面」）。次に、その業績や文化遺産を調べさせ、その理想を考えさせたり、聖徳太子を取り巻く人間関係を理解させたりする（「人物調査」）。そして、聖徳太子の業績には悪い側面もあることを理解させる（「人物批判」）。ここでは、グループ学習・発表を取り入れ、児童自ら与えられたテーマについて調査し、まとめる活動を行う。そして、最終段階では、聖徳太子の人間関係、それによってもたらされた功績や批判面を資料から読み取り、「あなたが聖徳太子であったら蘇我馬子と協力するか。」を意思決定させる。そのために、教科書の記述にはない、違う視点からの資料を用意する必要がある。

これらの学習過程を通し、聖徳太子の生きた時代はどのような時代であったか、児童自身に考えさせたい。そして、児童が調べたことを論理的に分析し、実践的判断力をつけられる授業展開にしていく。

以上をふまえた上で、次のような単元の指導計画を立てた。

4 指導計画（5時間扱い）

次	時	主な学習活動	各時間の評価規準
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○聖徳太子の人物像をつかむ。 ・旧壺万円札や聖徳太子に関するエピソードから聖徳太子とはどのような人かつかむ。 ・聖徳太子の3枚の像を比較する。 	<p>ア 聖徳太子という歴史上の人物に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。</p> <p>A：聖徳太子に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。</p> <p>B：聖徳太子について、学習に取り組んでいる。</p> <p>C：聖徳太子にあまり関心がない。</p>

2	2	○聖徳太子のしたことを調べ、発表する。	<p>ウ 資料やインターネットを活用し、聖徳太子の業績を調べ、整理したことを模造紙にまとめることができる。</p> <p>A: 資料やインターネットを適切に活用し、調べたことを自分なりに整理し、まとめることができる。</p> <p>B: 調べたことをまとめることができる。</p> <p>C: 調べたことをあまりまとめられていない。</p> <p>エ 聖徳太子の業績や理想、飛鳥時代の特色を理解できる。</p> <p>A: 学習事項をノートにしっかりまとめられている。</p> <p>B: 学習事項をノートに大体まとめられている。</p> <p>C: 学習事項をノートにあまりまとめられていない。</p>
	3	<p>・四大改革「冠位十二階」「十七条の憲法」「遣隋使派遣」「法隆寺建立」について、それぞれの内容とねらいを調べる。</p> <p>・資料を基に、批判的面もまとめる。</p> <p>・グループごとに模造紙にまとめる。</p> <p>・まとめた内容をグループごとに発表する。</p> <p>・聖徳太子の理想「天皇中心の、仏教を基調とした平和で豊かな国づくり」を理解する。</p>	
	4	<p>○聖徳太子の人間関係を調べる。</p> <p>・聖徳太子と蘇我氏や天皇家との関係を調べる。</p> <p>・聖徳太子を中心とした人間関係図を書く。</p>	<p>エ 聖徳太子と周りを取り巻く人間関係を理解できる。</p> <p>A: 人間関係をしっかり理解した上で、適切な人間関係図を書くことができる。</p> <p>B: 人間関係図を書くことができる。</p> <p>C: 人間関係を調べることができる。</p>
3	⑤ 本時	<p>○あなたが聖徳太子であったら、蘇我馬子と協力しますか。</p> <p>・聖徳太子の業績や理想、聖徳太子が関わった出来事をまとめる。</p> <p>→グループでまとめた模造紙を参考にする。</p> <p>・蘇我氏との人間関係を復習し、良い面と悪い面をまとめる。</p> <p>◎「あなたが聖徳太子であったら、蘇我馬子と協力するかどうか」について理由も含め、意思決定する。</p>	<p>○聖徳太子と蘇我氏はどのような関係でどのような功績を残したか考え、調べ学習や資料を基に、根拠をもって「あなたが聖徳太子であったら蘇我馬子と協力するかどうか」を判断することができる。</p> <p>A: 資料を基に、説得力のある根拠をもって、蘇我馬子と協力するかどうか判断できる。</p> <p>B: 根拠をもって、蘇我馬子と協力するかどうか判断できる。</p> <p>C: 蘇我馬子と協力するかどうか判断している。</p>

5 本時の学習（5／5時間目）

(1) 本時の目標

- ・聖徳太子と蘇我馬子の協力関係について功績と批判面を考え、調べ学習や資料を基に、根拠をもって「あなたが聖徳太子であったら蘇我馬子と協力するか。」を意思決定する。
- ・歴史や歴史上の人物に対して、偏った見方をせず、多角的に考える。
- ・聖徳太子の人物像から、飛鳥時代の特色を理解する。

(2) 評価規準

- ・聖徳太子と蘇我馬子の協力関係について功績と批判面を考え、調べ学習や資料を基に、根拠をもって「あなたが聖徳太子であったら蘇我馬子と協力するか。」を判断し、話し合いを通し表現することができたか。(イ 思考・判断・表現)
- ・聖徳太子の業績やそれに対する批判的側面から時代背景を理解することができたか。(エ 知識・理解)

(3) 準備

- ・ワークシート
- ・グループでまとめた模造紙 (教室の壁に掲示)
- ・聖徳太子と蘇我馬子の肖像画
- ・画用紙 (ピンク、水色を班の数分)
- ・ペン

(4) 展開

過程 (時配)	教師の指導	○児童の活動・発言	☆指導上の留意点 ★評価
事象提示 (8)	<p>・前時までの振り返りを行う。</p> <p>「前回までの授業で、聖徳太子の業績や人間関係を学んできましたね。今日はそのまとめをしていきます。ではまず、聖徳太子が行った四大改革は何がありましたか。」</p> <p>「そうですね。では、聖徳太子が目指していた、理想の国づくりはどのようなものでしたか。」</p> <p>・聖徳太子と蘇我馬子の肖像画を掲示する。</p> <p>「では、この二人はどのような関係で、どのような事をしま</p>	<p>「冠位十二階」</p> <p>「十七条の憲法」</p> <p>「遣隋使派遣」</p> <p>「法隆寺建立」</p> <p>「天皇中心の、仏教を基調とした平和で豊かな国づくり。」</p> <p>・聖徳太子と蘇我氏との関係を復習する。</p> <p>「協力しながら、天皇を中心とする政治制度を整えようとした。」</p>	<p>☆グループごとにまとめた模造紙を教室の壁に掲示しておく。</p> <p>☆内容も簡単に確認する。</p> <p>☆四大改革や聖徳太子の理想、蘇我氏との関係などが出なかった場合は、前時までのプリントを参考にさせる。</p> <p>☆蘇我馬子との関係では、良い面も悪い面の意見も両方出るように、たくさんの発言を</p>

	したか。」	<p>「様々な政治改革を行った。」</p> <p>「二人とも崇仏派だったので、廃仏派の物部氏を倒した。」</p> <p>「蘇我馬子が聖徳太子のおじの崇峻天皇を暗殺したが、聖徳太子はそれを黙認した。」</p> <p>「二人は近い親族関係があった。」</p> <p>「聖徳太子は蘇我氏と物部氏との戦いで戦勝祈願のために四天王像を造ったり、戦勝のお礼として四天王寺を建立したりしました。」</p>	促す。
課題提示(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を提示する。 <p>「このように、蘇我馬子と協力すると良い事もありましたが、批判的な面もあることがわかりましたね。では、実際にもし自分が聖徳太子であったら、蘇我馬子と協力するでしょうか。今日はそれを考え、その上で聖徳太子のまとめをしていきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を把握する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>あなたが聖徳太子であったら、蘇我馬子と協力しますか。</p> </div>			
予想(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てさせる。 ・ワークシートに記入する。 <p>「自分の考えをワークシートに書いてみましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想をする。 ・ワークシートに「自分が聖徳太子であったら、蘇我馬子と協力するかどうか」について、理由を含め、今の段階の自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆前時までに聖徳太子について調べたことを基に、自分なりの予想をたてるよう促す。 ☆なぜそう考えるのか、根拠となる理由も書くように指導する。 ☆立場をはっきりと決め、意思決定できるように促す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・4～6人の班を組み、班で賛 	<ul style="list-style-type: none"> ・立場をはっきりさせ、意見を交 	☆班の児童全員が発言

<p>交流する(20)</p>	<p>成・反対を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成の意見はピンク、反対の意見は水色の画用紙に記入する。 <p>・班ごとに、画用紙を元にどのような意見が出て、どのような話し合いをしたのか、前に出て発表する。</p>	<p>換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *蘇我馬子と協力すると考える側 <ul style="list-style-type: none"> 「仏教を広めるためだから。」 「仏教のおかげで十七条の憲法が出来た。」 「蘇我氏と協力して平和で豊かな国づくりを目指す。」 「中国や朝鮮に学んで大王を中心とする政治体制を整えようとしたから。」 「協力しなければ、様々な功績はなかったと思うから。」 *蘇我馬子と協力しないと考える側 <ul style="list-style-type: none"> 「仏教のためでも、物部氏を殺すのはよくない。」 「おじの崇峻天皇を蘇我氏が殺しているから。」 「結局天皇中心ではなく、蘇我氏の言いなりになっていた。」 「平和な国を目指したが、蘇我氏が好き勝手政治をやっていた。」 「十七条の憲法は天皇の命令に従うことが示されているが、天皇中心ではなかったから。」 	<p>できるように、班の様子を見て回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆両方の立場の意見をバランスよく出させるように心がける。 ☆自分の立場とその理由を明確に発言できるように指導する。
<p>まとめ(10)</p>	<p>まとめ①</p> <p>「それでは、いまの意見交換を踏まえて、最終的な自分の意見を理由も含めてワークシートに書きましょう。」</p> <p>まとめ②</p> <p>「今回、聖徳太子と蘇我馬子の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに最終的な自分の意見を書き、意思決定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の最終的な意見を、理由を明確にして、自由に書くように促す。 <p>★評価</p>

<p>関係を自分に置き換え考えてみて、二人が目指した政治や行った業績についてより詳しく学ぶことができましたね。最後に、これらを踏まえ、先生が黒板にまとめを書くので、ワークシートの括弧をすべて埋めてください。」</p>		
<p>聖徳太子は、(天皇中心の新しい国づくり)を目指したが、その背後には有力豪族の(蘇我氏)の存在があり、その協力なしでは政治が行えなかった。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>飛鳥時代(聖徳太子の生きた時代)は、大和朝廷での(豪族中心)の政治体制から(天皇中心)の政治体制への過渡的時代であった。</p>		<p>○聖徳太子と蘇我氏はどのような関係でどのような功績を残したか考え、調べ学習や資料を基に、根拠をもって「あなたが聖徳太子であったら蘇我馬子と協力するかどうか」を判断することができる。</p>
<p>・次時の説明 「次回の社会の授業は、聖徳太子の死後、どのようなことが起こったか勉強したいと思います。」</p>		<p>A: 資料を基に、説得力のある根拠をもって、蘇我馬子と協力するかどうか判断できる。</p> <p>B: 根拠をもって、蘇我馬子と協力するかどうか判断できる。</p> <p>C: 蘇我馬子と協力するかどうか判断している。</p>